

COM+S

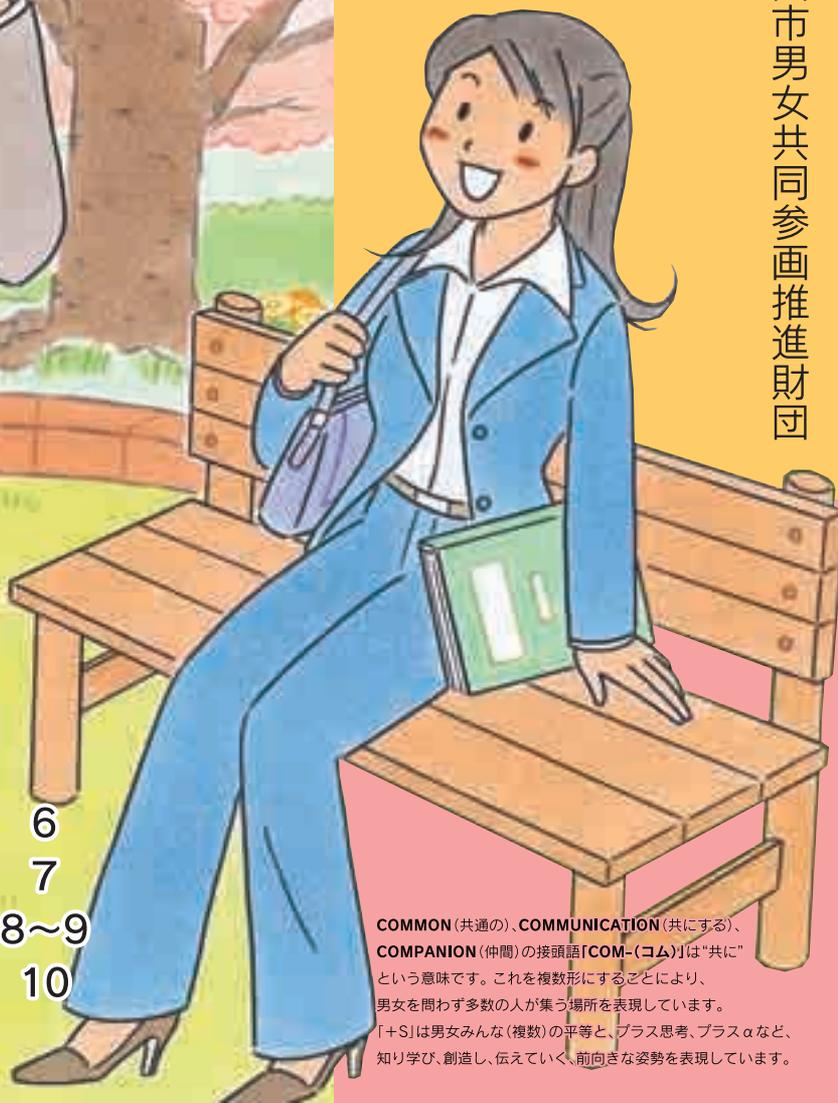
COMMON COMMUNICATION COMPANION

コムズ

第6回コムズフェスティバル

～若い人たちに伝えたいこと～

情報発信「コムズ」松山市男女共同参画推進財団



コムズ相談室から
セクハラ防止マニュアル配布中
公開講座 写真で気持ちを伝えよう
コムズde遊ぼう報告

6
7
8～9
10

COMMON (共通の)、COMMUNICATION (共にする)、
COMPANION (仲間)の接頭語「COM-(コム)」は「共に」
という意味です。これを複数形にすることにより、
男女を問わず多数の人が集う場所を表現しています。
「+S」は男女みんな(複数)の平等と、プラス思考、プラスαなど、
知り学び、創造し、伝えていく、前向きな姿勢を表現しています。

コムズフェスティバル特集

～若い人たちに伝えたいこと～

2/5 sat. ▶ 2/6 sun.

オープニングセレモニー

昨年夏の「コムズ表現講座」にてダンスの指導にあたり、受講生と一緒に松山まつりに「コムズ連」として出場したブレイクダンスチームSHOCKによるオープニングです。



メインシンポジウム「中学生からのメッセージ」

大人世代と若い世代間のコミュニケーションが希薄化する中、両者の思いをつないでいくためのシンポジウムが開催されました。松山市立子規記念博物館天野祐吉館長をメインコメンテーターに、画家のMAYAMAXXさんをゲストコメンテーターに迎え、松山市内中学生34名との熱いやりとりが交わされました。

シンポジウムは中学生の作文をもとに、中学生の思いと大人世代を代表した天野館長とMAYAMAXXさんとの本音のやりとりで進められました。当日の様子を紹介しましょう。

被災地での報道



天野祐吉館長

中学生 新潟で大型地震が発生した時、報道者は現地のコンビニで大量の食料を買い込む。被災地は食べ物ほとんどないというのに、身勝手なものだ。局の車が災害の中心近くに止まっているため、救援物資を積んだ車が遠くにしか止められず物資の運搬が大変になった。報道ヘリは昼夜を通して超低空飛行を行い、ひどい騒音だったらしい。自宅が全半壊し途方にくれている住民に「大丈夫ですか」とマイクを向け精神的なダメージも与えた。このような行き過ぎた報道はやめるべきだ。

天野館長 すごくいい意見ですね。災害にあってまいっている人に「ご気分どうですか」って悪いに決まっている。興味本位の報道に対して変だぞと見てくれるのはすごくいいことだと思う。

中学生 被害を伝えるのは大切だけど、それ以上に他人のことを考えることも大切だ。

天野 テレビの見方はひとつの見方で「私はこう思う」というところをなくすとテレビに侵されてしまうから、テレビとは距離をおいて見てほしい。

私が言いたいこと

中学生 映画館に行くたびに思うことがあります。映画の種類によって「R15」という私たちに対する指定があること。原作本には年齢の指定がない。なぜ、大人が決めるのか。もっと私たちのことを信じてほしい。

MAYAMAXX 自分で指定外のものを見る自信ある？禁止されているのが、いやなんだね。たとえば、中学生が「中学生委員会」を作って決めるのはどうだろう。でも、人の価値観はいろいろあるでしょう。もし私が大人で委員会のメンバーだとしても、ひとつの価値観にまとめる自信はない。

天野 「見分ける」のは難しい。自分がその中で、いろいろなことを通して、自分なりの価値観をみつけていくしかない。その能力が試されているのだと思う。

これからの社会 こうなってほしい

中学生 10代が起こす事件が増えてくる。むかつく、うざいで何人もの人が犠牲になっている。なぜ、10代なのか。私はキレやすく我慢できない、我慢しすぎて爆発すると二通りあると思う。身近な事に目をむけ、人を思いやる気持ちを行動にうつすことができればこれからの社会は良くなると思う。

MAYA 今は「キレる子」「我慢しすぎる子」とすごくはっきり分けられると思う。善し悪しは別にして自分を表現するのが上



MAYAMAXXさん

手な子と下手な子にも分かれる。この年代で何であんなに、もやもやするんだろう。頭ではわかっていても感情がついていきにくい年代だと思う。何か自分でも得体の知れないそういう時期を通過しているのかもしれない。

天野 世の中全体、言葉貧乏だと思う。

「あいさつ」は人間と人間が言葉でつながる基本だ。家であいさつしてる？あいさつにはただ言えればいいのではなく「私は今はこんなふう生きてますよ。あなたといい関係でいたいですよ」こういう関係を言葉で伝えている。これを面倒くさがって関係を自分から切っている人もいる。

もっとじっくり見てほしい

中学生 最近進路について考えている。私は漫画家になりたいのだが、大人は大反対する。生活は難しい、漫画家は仕事ではないというのが理由だ。どの仕事を選ぶかは人それぞれだと思う

フリートーク

まず、中学生34名全員に将来なりたい職業を聞いてみました。

- 教師
- バスケットの選手
- 演奏家
- 通訳
- プロ野球
- 公務員
- スチュワーデス
- 考古学の学芸員
- アナウンサー
- 保育士
- 医師
- 警察の相談係
- エンジニア
- 漫画家
- 放射線技師
- バレリーナ
- 薬剤師
- 理学療法士

お父さんと同じ職業につきたい。自分が今、興味があるから、尊敬できる人がいるからなどの理由で選択したそうです。

次に大人のここがいや！！を一人ずつ聞きました。

- 自分の言葉に責任をもって欲しい。
- 何でも自分の都合のいいようにする。
- やつあたりはやめて
- もっと私達の意見を聞いて欲しい
- 大人の定義って何？
- 勉強ばかり言わないで
- 国会で寝ないで欲しい
- いじめ仲間はずれは大人の世界にもある。
- もっといい大人になって欲しい。

う。生き方、幸せの感じ方は皆違っていいはずだ。物事を多面的に見て欲しい。

MAYA 僕も自由業だが結構楽しくやっている。うちの親は僕が何をやっているのかよくわかっていなかった。最近思うのは才能のある人は結構いっぱいいる。でも、なりたいたいものになれる人は少ない。続かない、途中でやめるからならない。「やめないこと」これが一番大切。あきらめたらそこで終わり。本当にそう思う。

天野 漫画家は、正業じゃない、堅気じゃないという人が多い。でも、あんまりまじめに生きてると気が堅くなっちゃう。漫画家や音楽家は人の気をほぐす仕事、堅気の人の気をほぐす仕事だ。サービス業かもしれない。やっていて楽しいと思う。親は食べれていると納得する。好きな事はつづくそうでなければつづかない。自分でよく見て考えて、これが大切。



MAYA いい加減な大人の方がいいと思う。やっぱり、きちんと立派な感じの大人は古い。こっちにも隙がある。欠点だらけでもいい。そのへんでいいと思う。

天野 基本的に上下はない。対等な関係で話し合う。大人でもわからないことはわからない。大人は見栄があるから子どもの前では恥をかきたくない。腹を割って話す空気がないから上から押さえつけてしまう。なにかギクシャクする。大人と本音でしゃべる場もない。話し方もわからない。自分の感受性がひからびないように自分で自分の感受性に水をやってください。大人はあなたたちの人生のお手伝いはできる。大人がしっかりできない分、みんながしっかりしてよ。見習ってついていきます。



思春期まっさかりの中学生のシャープな視点と天野館長、MAYAMAXXさんの体験からでる言葉の力に聞き入り、あっという間の2時間でした。若い人たちがまわりの人たちとの広がりの中で心を開いて「この人生は生きるに足る」という気持ちで育つような社会になってほしいと痛感しました。

(リポーター 三好久美子)

メインシンポジウム 「中学生からのメッセージ」



市民企画分科会

「働く親と子育て、子育て」

「保育園を考える親の会」代表の普光院亜紀さん（東京）を講師に迎え、働く親同士の情報交換・学習の場づくりやネットワーク化の必要性と、国の三位一体改革で進む保育制度改革で注意すべき点を話してもらいました。



参加者には、仕事と家庭の両立についての悩みや苦労談を本音で話し合える時間となり、両立のためには、人とのつながりによる精神的な安心感を得ることの重要性を確信できる分科会となりました。私たちは、このような機会を定期的に設けることの必要性を感じ、今回の企画と並行して「働く親と子の保育環境を考える会」を立ち上げました。この分科会での学習成果も今後、その活動の中で継続していく予定です。

市民企画分科会（財団市民派遣事業派遣市民）

女性学・ジェンダー研究フォーラムに参加して

平成16年8月、ヌエック（国立女性教育会館）で開催された「女性学・ジェンダー研究フォーラム」に、市民派遣された3名による参加報告と、自分達が身近に捉えている男女共同参画について問題提起すると共に、参加者と意見交換するために開いた分科会です。



自分達の想いをもっとストレートに伝え、参加者の方との活発なディスカッションを望んでいたものの、自分達の未熟さ故に不十分に終わってしまいました。

日本女性会議 アフターイベント

「集い、語り、ともに拓こう！新たな関係」～2004年日本女性会議を終えて、これからの私たち～

3年の歳月をかけた日本女性会議まつやま大会もこのアフターイベントで締めくくられることとなりました。この大会が私たちにもたらしてくれたものは何だったのか、実行委員として活動を支えてきた6人の委員と、プレブレから見守り見続けて頂いた船橋邦子さんを迎え、立川委員長との対談で成果を見つめ、課題を探っていきました。

6人の発表者からはこの3年間の活動がそれぞれの肉となり血となった成果の報告があり参加者からのアンケートにも感動を受けたとの声が多く寄せられました。また2部の船橋邦子さんからの提言は、これから私達がこの地、松山で起こさなければならないアクションへ向け示唆を頂いた内容となりました。オープニングを英語のスピーチで飾ってくれた水野さん（中学生）のような若い人達が生まれつつある松山に一筋の光を見た気がしました。



市民企画分科会

私にもできる!!DV根絶への取り組み

DV被害者の支援活動について、3名のパネリスト（大学生・保育園長・警察）による問題提起と、フロアとの意見交換により学習を展開した。まず、愛媛大学教授田中弘子さんよりDVの基礎知識を学びました。パネリストの体験発表からDVに関わった場合の実践例を挙げると…



●自らDVについて学習する ●親身になって聞く ●情報提供する ●幼児からの人権教育が大切 ●保護者会で児童虐待とDVの関係について学ぶ ●警察へは被害の届出が解決の第一歩 今後は第三者の支援ネットワークづくりが望まれます。

DVに関心を持てば、「私にもできる」ことがあります。地域でDV被害者に気づいたらこの学習を生かして、市民一人ひとりが、対応していくことを期待します。

また、船橋邦子さんより ■自治体職員はDVの勉強や、徹底した人権教育を。 ■自治体は現場の声を聞く。 ■行政は財政支援を。 ■県は基本計画作成、市はDV防止条例作成を。 という提言をいただきました。現場の生の声を吸収した施策に期待します。

市民企画分科会 運営推進委員有志の会

実践料理教育

みんなで作ろう！“さんかく”料理！イタリアン

昨年に続く“さんかく”料理教室パートⅡはイタリア料理。45名の参加者がグループに分かれてピザ、ミネストローネ、サラダに挑戦。1時間半で料理を仕上げ、1時間で食事をし、30分で片付けというタイムスケジュールながら、この料理教室には毎回とっておきのエッセンス「さんかく講和」を用意。作って、食べて、歓談し、ちょっぴり、さんかく＝男女共同参画を考える集まりとなりました。



ビデオ上映会

ドキュメンタリー映像
「ヤカオランの春」～あるアフガン家族の歴史～

ドキュメンタリー映像「ヤカオランの春」を上映後、制作者の川崎けい子さんに、アフガニスタンの教育事情や女性差別について語っていただきました。参加者の方からも次のような感想を寄せていただきました。

- ・ヤカオランは戦争があったことが信じられない美しさで、本当に平和になってほしい。
- ・教育を受けさせないことは未来を奪うこと。頭が柔らかい子どもの時に何を与えるか、そうした教育の尊さや恐ろしさを感じた。
- ・紛争を生き延びた教師による近代史の語り継ぎ、生活現場の描写。生命ある人間の視点を感じる映像だった。



展示スペース利用イベント

●コムズ人材養成講座
ステップアップⅡ修了生研究発表

今年度男女共同参画推進センターのステップアップⅡコースで学んだ修了生が、自分たちの取り組んだ研究内容を発表しました。



●日本女性会議2004まつやま
写真でたどる「日本女性会議2004まつやま」

撮影ボランティアの作品を主に、昨年10月22・23日に開催された「日本女性会議2004まつやま」当日の様子をたどる写真展です。あわせて、分科会部会の当日資料も展示しました。



まつやまNPOサポートセンターイベント

「やるときゃ、やるよっ！」～新居浜の高校生、災害復興ボランティア体験～



2004年、2度の水害に見舞われた新居浜市。その新居浜市で災害復興ボランティアとして活動した地元の高校生に、活動の様子や活動を通して何を感じたかを語ってもらいました。特に今回のコムズフェスティバルのテーマが「若い人たちに伝えたいこと」ということもあり、高校生たちにボランティアを自分の成長の場としてとらえて、地域や社会と関わるきっかけにしてもらいたいという思いがありました。

まず、新居浜市社会福祉協議会の永易英寿氏に水害の状況を、写真をまじえながら話していただきました。道路にあふれ出した泥、根こそぎ流れてしまった家の石垣など、想像以上の光景に参加者の皆さんは言葉を失っている様子でした。続いて、そんな状況の中でボランティア活動した新居浜市内の高校生に話を伺っていただきました。

活動に参加したきっかけは「学校で言われたから」。彼らのほとんどがこう語りました。しかし1度のみならず、2度3度と活動を重ね、中には新居浜市外の被災地まで行った高校生もいました。その原動力は地域の人々からの感謝の気持ち。普段の学校生活では、あまり縁のなかった人々から言われた「ありがとう」の言葉が彼らを動かしたのだなと感じました。

また、「地域の助け合い」の大切さも感じ、日頃から何か活動したいという高校生たち。後半は新居浜の高校生と参加者が一緒になって、災害時だけでなく日常生活の中でも、地域の助け合いの活動はできないものだろうか考えるワークショップを行いました。自分たちのやりたいこと、興味のあることを活かして、地域のためにできることを考えていきました。「自分たちでも地域の中でできることがある」ということを具体的に実感してもらったところまでは達しなかったものの、何かしたいけど今一歩踏み出せない高校生に対して、一石投げられたのではないかと思います。

まつやま国際交流センターイベント

韓国文化体験！おしえてコレア2005



韓国の本当の生活って？韓国の人たちは普段、どういう生活をしているのでしょうか？韓流ブームで身近になったようで、なかなかそうでもない韓国の生活の全てを、留学生のボランティアの方々の企画によって体験してもらおうというイベントを開催しました。韓国の礼儀作法、食文化、娯楽、言葉を体験しました。留学生と参加者の交流は開催後も一部継続しているとのお知らせもありました…。

韓国文化体験！おしえてコレア2005

松山市新玉児童館イベント

1階 クラフトコーナーの缶バッチ作りや昔懐かしい駄菓子屋さんには、たくさんの親子連れが集まっていました。



2階 毎年好評の景品つりゲームに加え、今年は、射的や巨大だるまおとしが登場。ビンゴゲームでは、ビンゴが出るたびに会場から大きな歓声が上がりました。



「改正DV防止法」が 施行されました。

だれもが安心して、自分らしく生きることのできる社会を目指して、コムズ相談室はあなたを応援します！！どのようなことでもご相談ください。

ご存知ですか？

平成13年10月より施行された「DV防止法」は、配偶者間の暴力防止と被害者保護を定めたものですが、これだけでは適切な対応ができない事例も発生していることから、平成16年12月2日に「改正DV防止法」が施行されました。

改正のポイント

- POINT 1** 身体的暴力だけでなく、心身に有害な影響を及ぼす言動による暴力も加えられました。
- POINT 2** 元配偶者の申し立てや、被害者と同居する未成年の子どもに対する接近禁止命令も可能となりました。また、退去命令も2週間から2ヶ月に拡大し、場合によっては再度申し立てができるようになりました。
- POINT 3** 被害者の自立支援のための国・地方公共団体・福祉事務所・支援センターの業務が明確になりました。
- POINT 4** 支援センター業務を、市町村でも設置することができるようになりました。

この他にも、

- 基本方針及び基本計画の策定
- 外国人、障害者の被害者への対応などがあります。

●女性のための電話・面接相談（平成16年4月～12月末）

■電話相談：953件（DVの相談64件）

■面接相談：146件（DVの相談23件）

* 託児付面接相談や男性（電話）相談もしています。

●今年度、こんなグループ支援をしました！！

■『子どもをたたいてしまいそうになる母親のミーティング』

■『DVをのりこえよう』

■『摂食障害当事者女性の会・りぼんの会』

コムズ相談室・相談専用電話：089 943 5770

- 相談時間 火・水・金・土曜日…10：00～20：00
- 日曜日・祝日……………10：00～16：00



セクハラ防止マニュアル作りました!

職場における セクシュアル ハラスメント 防止マニュアル



コムズでは、2004年、企業などで働いている女性を対象にセクシュアルハラスメントに関するアンケートを実施し、その後「セクハラ防止交流会」を開催しました。

そこで、出された意見をもとに、連合愛媛女性委員会やコムズ人材養成講座市民の方の全面協力を得て、このマニュアルを作成しました。

職場のセクシュアルハラスメントを防止するための意識啓発、男女がともに働きやすい職場環境の実現に役立てていただけたらと思います。



- 職場におけるセクシュアルハラスメントとは
- 対価型セクシュアルハラスメント
- 環境型セクシュアルハラスメント
- セクハラ防止チェックシート
- セクシュアルハラスメント防止の気付きへ
- セクシュアルハラスメントを受けてしまったら
- 管理する人のためのセクハラ防止6カ条
- アンケート調査集計結果
- セクシュアルハラスメントの相談窓口

希望者には無料配布

コムズ事務室にて、希望者に無料配布しています。
数に限りがありますので、なくなり次第終了とさせていただきます。

問い合わせ

コムズ 事業係 TEL(943)5777



公開講座

「パンチャ! 写真で

市内在住の小学校5、6年～中学1年生の男女18人の子どもたちがコムズ



写真家 小林キウウさん

写真って何だろう

まず、キウウさんからのお話。キウウさんの「写真とは何だろう?」という問いかけに、子どもたちは「記念の時に撮るもの」「旅行の時に撮るもの」と答えました。この講座が終る頃に、この答えがどう変化しているのか楽しみです。

いざ撮影へ

簡単な説明の後、カメラを抱えた子どもたちはコムズを飛び出し、3～4人のグループに分れそれぞれのルートを散策しました。途中、それぞれ自分の興味を持ったものや印象に残ったものをどんどん撮影していきます。カメラには慣れていても、こういった写真を撮るのは初めてという子が多かったようです。はじめは何を撮影してよいかわからず、少し戸惑っていましたが、徐々に慣れて撮影はどんどん進んでいきました。昼ころまでに写真を撮り終え、休憩と昼食。その間、子どもたちが撮影したフィルムを現像します。

作品づくり

午後からはいよいよ作品づくりです。撮影した写真の中からとびきりの自分のお気に入りを選びます。キウウさんいわく、選んだ「1枚」には、自分の気持ちが入っているのだそうです。お気に入りの一枚を画用紙に貼って、タイトルをつけます。そして、なぜそれを選んだのか、何をイメージしたのか、撮影したときの気持ちなどを自由に文章にしていきます。

みんなの前で発表

作品が完成すると、みんなの前で発表します。一人一人の作品が投影され、子どもたち自身が作文を読み上げていきます。子どもならではの視点で撮影された個性あふれる作品たち。キウウさんは写真のいいところにひとつひとつコメントをつけていきます。

ある男の子は、美術館の大きなクスノキを撮影。タイトルは「のんびり」。画面いっ





気持ちを伝えよう」



に集合。写真家小林キユウさんを講師に迎え、公開講座に参加しました。

ばいにクスノキが広がり、とても雄大な作品です。「美術館の4階よりも高いこの木が、僕はいいと思いました。美術館に行けて良かったです。」とは作者の弁。

別の児童は、市内電車を撮影していました。電車が嫌いだったその児童は、写真を撮ってみて、電車はいろいろな場所へ連れて行ってくれたり、友だちと会えたり、思い出を作ることができるのだと発見し、撮影後はあまり嫌いではなくなったと発表していました。



カメラを持つと面白いものに出会える

私は講座を見学して、カメラを持つことでいろいろな再発見ができたり、思い込みを解消できたり、そして感性を豊かにしてくれるのだと実感しました。子どもたちのそれぞれの違った視点が良くわかり楽しい発表会となりました。

それぞれの発表も終り、最後はキユウさんのお話です。「カメラを持って歩くと、おもしろいものに出会える、街がいつもと違うように見える」

感じたものが写真になった

講座の最初に「写真とは何だろう？」という問いかけに「記念の時に撮るもの」「旅行の時に撮るもの」と答えた子どもたち。発表を終え、それぞれが素直に感じたものが、すなわち「写真」になっていました。参加した子どもたちも「すごく楽しかった」「また自分でも街を撮影して歩きたい」「街を見る目が変わった」などの声が聞かれとてもいい機会だったと思います。「僕は素直な気持ちで撮ったものもいい写真だと思っています。」と、キユウさん。そんなキユウさんが撮った写真は「笑っている壁」。とあるビルの窓と壁が、微笑んでいるように感じたそうです。天気の良い暖かい日だったので、壁も気持ちよさそうにしていたのでしょう。

この後、自分たちの作品がコムズのロビーで展示されると聞いて、子どもたちは満足そうでした。これを機会に、子どもたちももっと感性豊かに表現力を広げていってくれると良いと思います。(写真はすべて子どもたちの作品です。)

(リポーター 山崎 あずさ)



コムズフェスティバルプレイベント



コムズを利用して活動している市民団
体有志による自主企画イベントが開催
されました。来て・見て・触って・体
験して...盛りだくさんの2日間でした。

(リポーター 金子匡子)

自主企画 (各会議室)

土曜・日曜の2日間、
各会議室を利用して、各
団体の自主企画による無
料の体験会やワークショ
ップが催され、たくさん
の参加がありました。



普段の活動を来館者の
みなさんと共に楽しめる自主企画は、誰でも気軽に参加で
きるいいチャンスです。この日のために、企画を練ったり、
紹介するチラシを作成したりと、各団体知恵をしぼられた
ことでしょう。

パネル展示 (5階・大会議室)

個性豊かな写真が並ぶギャラリーや身近な環境問題を分
かりやすく解説するコーナーなど、各団体趣向を凝らした
展示がずらりと並び、にぎやかなスペースとなりました。

シニアの方々が日ごろの活動紹介や、バランスのよい食
事のとりかたなど、各団体のみなさんから直接お話が聞け
るよい機会となりました。

参加団体 (20団体 50音順)

NPO法人日本交流分析協会愛媛支部・ODAの木自然学校・あかね会・アロ
ハフラガールズ・生命の貯蓄体操シード松山支部・伊予かすりに親しむ会・愛
媛県環境カウンセラーズ会・愛媛シニアパワーアップ協議会・カウンセリング
ラインえひめ・グリーンアップサークルAQUA・言語交流研究所ヒッポファ
ミリークラブ松山・世界平和女性連合愛媛県支部・タートル松山ラウンドダン
スクラブ・花俱樂部・フォークダンスサークルクレド・松山国際写真集団・松
山友の会・マロニエの会・森光先生と気功・ライフラインネットワーク

ロビーイベント (1階・ロビー)

外の寒さとは
対照的にコムズ
のロビーは、ハ
ワイアン音楽
とフラダンスで
ハワイの熱気に
包まれていまし
た。ゆったりと
したメロディと
緩やかなからだの動き、しなやかな手の動きにいつしか癒
されていました。



フラを踊られている方には身体の不調がよくなったとい
う方もいらっしゃるかと。美しい音楽にのってからだを動
かすこと、楽しい時間を共有することは、心にもからだに
もいいのかもしれない。

ステージ発表 (5階・大会議室)

ステージでは、各団体が日ごろの活動を発表しました。

ラウンドダンスやハワイアンフラ、生命の貯蓄体操など
ステージと会場が一体となって歌や踊りを楽しむ発表や、
カーテンを使った省エネについてのお話など立ち見が出る
ほどの盛況ぶりでした。

それぞれの活動が目の前で見ることができて楽しかった
です。

体験 (5階・大会議室)

毎年好評の伊予かすり
を使った体験では、プロ
ーチや根付けづくりにと
くさんの方が参加されて
いました。



子どもから大人まで楽
しめるネイチャークラフ
トでは、松ぼっくりの湿度計や年輪ペンダントづくりを体
験。非木材のケナフ用紙を使ってはがきや小物作りも体験
でき、楽しみながら環境学習もできました。

手ぶらで来て気軽に参加できるさまざまな体験で楽しい
ひとときを過ごしました。

編集後記

別れの春もあれば、出会いの春もあります。また、
旅立ちの春もあるでしょう。みなさんはどのよう
な春をお過ごしですか？花粉症暦20年以上の私
にとって、春はつらい季節の始まりです。

まだ、花粉症と縁のない方も、油断はできません
よ。花粉症は突然やってきます。

(Y)